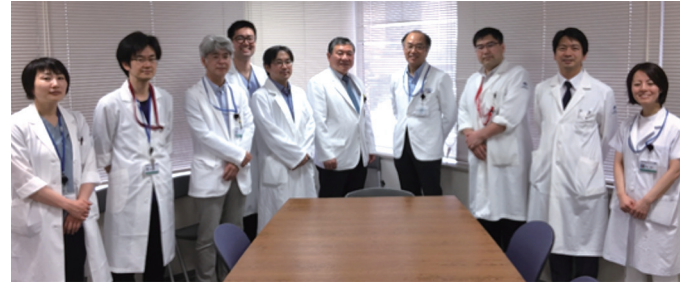


# 国立がん研究センター中央病院胃外科で ArtとScienceを学ぼう

## 診療科としての人材育成のポイント

ヒトの身体や病気のメカニズムはすべて解明されているわけではなく、完璧な治療法もありません。われわれは、限定された情報の中で、先人が積み上げてきた、臨床研究の成果、知識や経験を生かしつつ、現時点で最良と判断される方法で患者さんの診療にあたっています。診療をしていくなかで、数多くの疑問が生まれます。生まれた疑問は、指導医に教えを請うたり、成書や文献に当たることによって解決できるものもあれば、できないものもあります。解決できない疑問をどうするか、どうすれば解決できるか。中央病院胃外科では、知的好奇心を持ち「Art = 手術技術」と「Science = 疑問を解決し新たな診療を生み出す科学」を追及できる人材、将来の胃癌外科をリードする人材を育てます。



## 国立がん研究センター中央病院胃外科での研修の特徴

- 豊富な症例数と少数のレジデントによる密度の高い手術経験
- 国内屈指の腹腔鏡下胃切除の執刀経験と技術認定医合格実績
- 論文執筆、国際学会発表で世界につながるglobalな情報発信のチャンス
- 日本臨床腫瘍研究グループ(JCOG)の中心施設としての経験

# Art

## 豊富な症例と少数修練医による 高密度な執刀機会

年間400例程度の胃がん外科治療を行っています。開腹や腹腔鏡下に、機能温存手術から大動脈周囲リンパ節郭清、経裂孔下縦隔郭清、胸腔鏡下高位胸腔内吻合まで、すべての手術を経験できます。また、当科は、腹腔鏡下胃切除術の技術認定医5名を擁しています。2018年度の腹腔鏡手術数は、200件程度でした。経験豊富なスタッフが、技術認定医取得に向けて、丁寧に指導しています。ビデオカンファランスを定期的に行い、常により優れた手技の開発を目指します。また、ラボでの実習も定期的に組み込んでいます。「ビデオカンファ」、 「ラボ実習」、 「技術認定医の指導下での執刀」により、効率的に手技を勉強することができます。当院でレジデントに対する腹腔鏡下胃切除のトレーニングを開始して以来、修練医の内視鏡外科技術認定医(幽門側胃切除)の合格率は80%と全国屈指の合格率を誇ります。

## 胃外科スタッフによる手術指導レクチャー(胃外科で定例開催される教育講義)

- ビデオクリニック(レジデント執刀手術のビデオを振り返り改善点の指導)
- 手術デバイスの原理、安全な使用方法、ビットホルルの解説
- 実際のビデオからトラブルシューティング
- 大動脈周囲リンパ節郭清手技
- 胃癌手術に必要な膜解剖の理解

緊張感は持ちつつも和やかな空気で技術指導



研修に関するお問い合わせ先

国立がん研究センター 中央病院  
胃外科

教育担当：  
林 勉

メールアドレス：  
tsuhayas@ncc.go.jp

中央病院レジデントプログラム HP  
<https://www.ncc.go.jp/jp/ncch/division/cepcd/resident/index.html>



Facebook 中央病院 教育・研修情報  
<https://ja-jp.facebook.com/CancerEducation/>



# Science

## Logical thinkingの熟成 英語論文執筆、国際学会発表から 世界へ情報発信

### 1. 治療開発

日本臨床腫瘍研究グループ(JCOG)の中心的施設として、ほぼ全ての胃癌外科治療の開発を主導してきました。また、現科長は、JCOG胃がんグループのグループ事務局として、グループを支えています。年3回開かれる胃がんグループ班会議や、中央病院で開かれるJCOGプロトコルコンセプト会議に参加すれば、どのようにプロトコルがブラッシュアップされていくのか経験できます。さらに、臨床試験のプロトコルを熟読し、患者さんを試験に登録し、プロトコル治療を実践することで、新しい標準治療がどのように築かれていくのかを経験できます。プロトコルを自ら作成し、治療開発を主導していく人材を育成していきます。

### 2. 臨床研究

豊富な症例を用いて、臨床研究を行い、診療のなかで生まれた多くの疑問を解決していきます。研究成果は、英語論文にまとめてもらいます。毎週水曜日は研究カンファレンス、毎週木曜日はスタッフレクチャーを行っています。経験豊富なスタッフが、研究の進め方、英語論文の書き方から投稿まで、丁寧に指導します。

### 3. トランスレーショナルリサーチ(TR)

研究所、全国の主要な大学、イギリスリーズ大学 / オランダマーストリヒト大学 / シンガポール国立大学と連携しています。TRでの英語論文執筆も可能です。

## 胃外科スタッフによるレクチャー(胃外科で定例開催される教育講義の例)

- 英語論文の書き方
  - レジデント研究課題のディスカッション
  - 栄養療法や低侵襲治療のアウトカム評価法とその問題点
  - 臨床データ解析方法、統計手法
  - 胃癌治療の歴史
- など多数



病理カンファレンス

# Other

### 定例カンファレンス / 教育レクチャー

- ・内視鏡科合同手術/ESD 症例カンファレンス(毎週)
- ・胃外科 / 消化管内科 / 内視鏡科合同カンファレンス(毎週)
- ・病理カンファレンス(月一回)
- ・研究カンファレンス(毎週)
- ・スタッフレクチャー(毎週)

### 海外からの留学生 / 見学者との交流

- ・国際的な人脈構築のチャンス
- ・(苦手な人は)英会話のトレーニング

## レジデントプログラム ■ 胃外科

### § 推奨するコース

#### ● レジデント2年コース

対象者	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新専門医制度対象者は基本領域専門医取得済み、もしくは取得見込み(旧専門医制度対象者はその基本領域の専門医もしくは認定医等取得済み、もしくは取得見込み)で、当院での研修によりサブスペシャリティ専門医を目指すもの。</li> <li>※基本領域専門医:外科専門医/サブスペシャリティ専門医:消化器外科専門医</li> <li>・将来、胃外科を専門とし、内視鏡外科技術認定(胃)を目指すもの。</li> </ul>
研修目的	<ul style="list-style-type: none"> <li>・胃外科の研修を中心として、腫瘍外科全般を研修することで、幅広く消化器外科全般の知識と技術を習得する</li> <li>・胃外科の専門家として、基本的な知識と技術を習得する</li> </ul>
研修内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・1年目:おもに病理診断部、放射線診断部・IVR、肝胆膵内科、消化管内視鏡部、CCMに在籍して、外科以外の腫瘍臨床研修を行う。外科以外の幅広い研修が最も勧められるが、希望に応じて胃外科を含めた外科各科での研修も可能である。研究成果の学会での発表、論文執筆を目指す。</li> <li>・2年目:胃外科のほか、消化器を中心とした腫瘍外科(食道外科、大腸外科、肝胆膵外科)に在籍し、一般腫瘍外科の経験を積む。希望に応じて消化器外科以外の腫瘍外科(乳腺外科、肺外科、泌尿器・後腹膜腫瘍科、婦人科、頭頸科など)での研修を行うことも可能である。</li> </ul>
研修期間	2年 ※病院の規定に基づきCCM研修を行う
研修の特色	

#### ● レジデント3年コース

対象者	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新専門医制度対象者は基本領域専門医取得済み、もしくは取得見込み(旧専門医制度対象者はその基本領域の専門医もしくは認定医等取得済み、もしくは取得見込み)で、当院での研修によりサブスペシャリティ専門医を目指すもの。</li> <li>※基本領域専門医:外科専門医/サブスペシャリティ専門医:消化器外科専門医</li> <li>・将来、胃外科を専門とし、内視鏡外科技術認定(胃)を目指すもの。</li> </ul>
研修目的	<ul style="list-style-type: none"> <li>・胃外科の研修を中心として、腫瘍外科全般を研修することで、幅広く消化器外科全般の知識と技術を習得する</li> <li>・胃外科の専門家として、基本的な知識と技術を習得する</li> </ul>
研修内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・1年目:おもに病理診断部、放射線診断部・IVR、肝胆膵内科、消化管内視鏡部、CCMに在籍して、外科以外の腫瘍臨床研修を行う。外科以外の幅広い研修が最も勧められるが、希望に応じて胃外科を含めた外科各科での研修も可能である。研究成果の学会での発表、論文執筆を目指す。</li> <li>・2年目:胃外科のほか、消化器を中心とした腫瘍外科(食道外科、大腸外科、肝胆膵外科)に在籍し、一般腫瘍外科の経験を積む。希望に応じて消化器外科以外の腫瘍外科(乳腺外科、肺外科、泌尿器・後腹膜腫瘍科、婦人科、頭頸科など)での研修を行うことも可能である。</li> <li>・3年目:原則として胃外科に在籍する。</li> </ul>
研修期間	3年 ※病院の規定に基づきCCM研修を行う
研修の特色	

#### ● がん専門修練医コース

対象者	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新専門医制度対象者は基本領域専門医取得済み(旧専門医制度対象者はその基本領域の専門医もしくは認定医等取得済み、もしくは取得見込み)、かつ、サブスペシャリティ領域専門医取得済み、もしくは取得見込みで、当院での研修により当該領域に特化した修練を目指すもの。</li> <li>※サブスペシャリティ専門医:消化器外科専門医</li> <li>・当センターレジデント修了者あるいは同等の経験と学識を有するもの。</li> <li>・基本的な胃癌手術と腹腔鏡手術の経験を有し、内視鏡外科技術認定(胃)の取得を目指すもの。</li> </ul>
研修目的	内視鏡外科技術認定(胃)の取得
研修内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・2年間で胃外科の臨床経験を積みながら、集中的に1~2例/1週~2週、程度の腹腔鏡手術の執刀を目指す。</li> <li>・到達度に応じて、腹腔鏡下胃全摘術や噴門側胃切除術までの習得を目指す。</li> <li>・当科レジデントのリーダーとしてカンファレンスや手術のマネージメントを行う。</li> </ul>
研修期間	2年間
研修の特色	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大学病院や市中病院での研修ではなかなか習得の難しい、内視鏡外科技術認定(胃)の取得を目指す。</li> <li>・技術認定医を有するスタッフ5名が第一助手となり、実際に腹腔鏡手術を執刀</li> <li>・定期的なビデオカンファレンスでの振り返りや、アニマルラボ/ドライラボでの基礎技術を習得</li> <li>・技術認定審査員となっているスタッフが実際に採点。3本の合格ビデオ作製を目指す。</li> <li>・修了後は、地域や専門施設での胃外科リーダーを目指す。</li> </ul>

#### ● 連携大学院コース

対象者	<ul style="list-style-type: none"> <li>・消化器外科専門医を取得、もしくは取得見込みのもの。</li> <li>・内視鏡外科技術認定(胃)を目指すもの。</li> <li>・連携大学院制度を利用して、学位取得を目指すもの。</li> </ul>
研修目的	内視鏡外科技術認定(胃)の取得、学位の取得
研修内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・合計4年間で胃外科の臨床経験を積みながら、集中的に1~2例/1週~2週、程度の腹腔鏡手術の執刀を目指す。</li> <li>・臨床研究または橋渡し研究を計画/立案/遂行し、2~3本の英語論文作成を目指す。</li> </ul>
研修期間	レジデント2年間+がん専門修練医2年間 ※がん専門修練医への採用には再度試験を行う ※病院の規定に基づきCCM研修を行う
研修の特色	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大学病院や市中病院での研修ではなかなか習得の難しい、内視鏡外科技術認定(胃)の取得を目指す。</li> <li>・実際に腹腔鏡手術を執刀、ビデオカンファレンスでの振り返り、アニマルラボ/ドライラボで基礎技術を習得</li> <li>・技術認定審査員となっているスタッフが実際に採点。3本の合格ビデオ作製を目指す。</li> <li>・臨床研究または橋渡し研究を行う</li> <li>・スタッフが毎週、研究の進捗/英語論文作成状況をCheckする</li> <li>・修了後は、地域や専門施設での胃外科リーダーを目指す。</li> </ul>

#### ● 高度技能医4年コース

対象者	<ul style="list-style-type: none"> <li>・消化器外科専門医を取得、もしくは取得見込みのもの。</li> <li>・内視鏡外科技術認定(胃)の取得を目指すもの。</li> </ul>
研修目的	内視鏡外科技術認定(胃)の取得
研修内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・合計4年間で胃外科の臨床経験を積みながら、集中的に1~2例/1週~2週、程度の腹腔鏡手術の執刀を目指す。</li> <li>・到達度に応じて、腹腔鏡下胃全摘術や噴門側胃切除術までの習得を目指す。</li> </ul>
研修期間	レジデント2年間+がん専門修練医2年間 ※がん専門修練医への採用には再度試験を行う ※病院の規定に基づきCCM研修を行う
研修の特色	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大学病院や市中病院での研修ではなかなか習得の難しい、内視鏡外科技術認定(胃)の取得を目指す。</li> <li>・技術認定医を有するスタッフ5名が第一助手となり、実際に腹腔鏡手術を執刀</li> <li>・定期的なビデオカンファレンスでの振り返りや、アニマルラボ/ドライラボでの基礎技術を習得</li> <li>・技術認定審査員となっているスタッフが実際に採点。3本の合格ビデオ作製を目指す。</li> <li>・修了後は、地域や専門施設での胃外科リーダーを目指す。</li> </ul>

#### ● 高度技能医5年コース

対象者	<ul style="list-style-type: none"> <li>・消化器外科専門医を取得、もしくは取得見込みのもの。</li> <li>・内視鏡外科技術認定(胃)の取得を目指すもの。</li> </ul>
研修目的	内視鏡外科技術認定(胃)の取得
研修内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・合計5年間で胃外科の臨床経験を積みながら、集中的に1~2例/1週~2週、程度の腹腔鏡手術の執刀を目指す。</li> <li>・到達度に応じて、腹腔鏡下胃全摘術や噴門側胃切除術までの習得を目指す。</li> </ul>
研修期間	レジデント3年間+がん専門修練医2年間 ※がん専門修練医への採用には再度試験を行う ※病院の規定に基づきCCM研修を行う
研修の特色	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大学病院や市中病院での研修ではなかなか習得の難しい、内視鏡外科技術認定(胃)の取得を目指す。</li> <li>・技術認定医を有するスタッフ5名が第一助手となり、実際に腹腔鏡手術を執刀</li> <li>・定期的なビデオカンファレンスでの振り返りや、アニマルラボ/ドライラボでの基礎技術を習得</li> <li>・技術認定審査員となっているスタッフが実際に採点。3本の合格ビデオ作製を目指す。</li> <li>・修了後は、地域や専門施設での胃外科リーダーを目指す。</li> </ul>

### § その他のコース

#### ● レジデント短期コース

対象者: 希望される期間で、がん研究センターの研修機会を活かしたい方  
 期間・研修方法: 6か月~1年6か月。胃外科研修(他科ローテーションも相談可)  
 ※6か月を超える場合は病院の規定に基づきCCM研修を行う

対象者、研修期間、CCM・緩和医療研修、交流研修等 病院全体で定められた基準は12-13ページを参照